

■編集

西区役所総務企画課広聴係 〒063-8612 西区琴似2条7丁目1-1
TEL 641-2400 内線224~227 FAX 641-2405

◎西区広報番組「西区情報プラザ」FMラジオ三角山放送局76.2MHz
毎週月曜日午前11時～

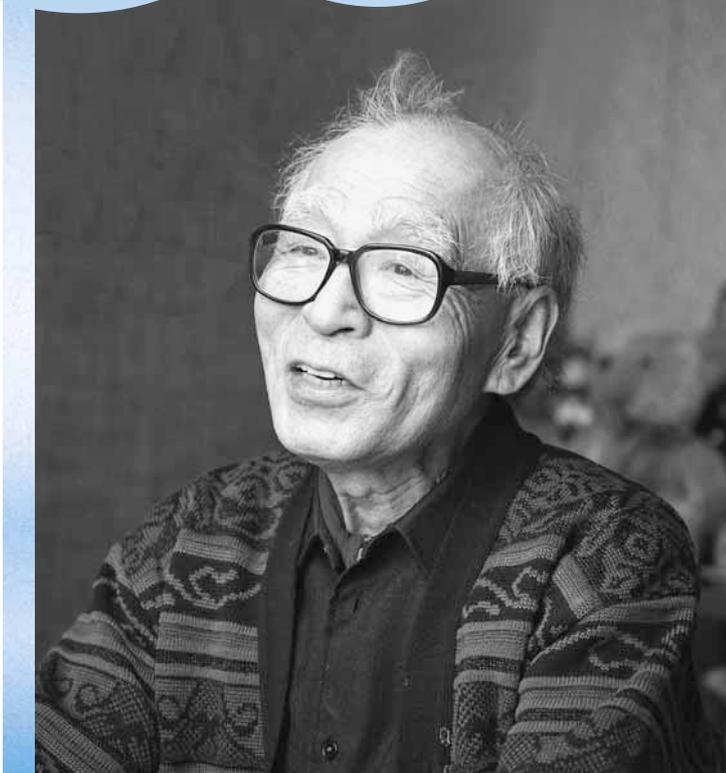
◎西区協力番組「西区まちセン最前セン」同局毎週木曜日午前11時～

◎西区ホームページ <http://www.city.sapporo.jp/nishi/>

◎区民のページ 2008・12



まちの人



世界各国の馬車の模型を作り続ける

たかしま ひでお
高嶋 英雄 さん (78)



■馬車の模型が整然と並ぶ自宅の庭の展示小屋。すべての作品の車輪が動き、扉も開閉可能。観覧希望者には公開している。

昔は札幌でも主要な交通手段として活躍していた馬車。しかし、今では見掛けることはほとんどありません。八軒在住の高嶋さんは、定年退職後、子どもころの馬車のある風景を懐かしみ、馬車の模型を作り始めました。「昔の風景は心の中であり、写真に撮ることができないから、模型で再現しよう」と考えたそうです。

「当時の生活はとても厳しかったけれど、みんなの心の中には今よりゆとりがあったように思う」と振り返る高嶋さん。父親と二人で真夜中に馬車に乗り、ニシンの買い付けのために銭函や朝里まで行

区民のページで取り上げてほしいテーマなど、皆さんからのご希望やご意見をお寄せください。はがき、ファクス、Eメール nishi@city.sapporo.jp で西区総務企画課広聴係へ。

馬車と人間の歴史に魅せられて

ったことなどがいい思い出になっているそうです。

高嶋さんはその後、馬車に関する文献を読むうちに馬車の歴史に魅せられ、世界各国の馬車の模型を制作するようになりました。「単に輸送の道具にとどまらず、競技用や若者のデート用など、何千年も前から付き合ってきた馬車と人間の歴史が面白い」と感じ、現在までに約六十台もの馬車の模型を完成させました。

模型はすべて図面から自作。イラストや写真を基に、まず車輪の直径を決め、バランスを考えながら高さや長さを決めます。装飾品以外はすべて木製で精密にできています。きれいな新車や、使い込んだ風合いを出したものなど、馬車の魅力を引き出すために一台一台丁寧に施された塗装も見事。模型を見ていると当時の様子が背景に広がってくるような気持ちにさせられます。

高嶋さんのお気に入りの一台を尋ねると「決められない」とのこと。で、「フランスの王様が王妃のために特注した」「車輪のスポークに印を付けることで日にちを数えた」など、馬車にまつわる話を楽しそうに語ってくれました。